

平成 25 年 1 月 19 日

一般財団法人中斎塾フォーラム設立記念式典 塾長講話

於：太田ナウリゾートホテル

黎明（れいめい）

本日はお出で戴きまして有難うございます。

ここは、学ぶご縁でございます。「学びて思わざれば則ち罔く、思いて学ばざれば則ち殆し」とあります。先ほど御挨拶戴いた大豆生田足利市長さんも含めて、政治に携わる方は是非とも大いに学んで戴きたいと思えます。足利市は教育に非常に力を入れておられるようですので、良い市だと思っております。

私は政治家の先生方にお会いすると、大概お聞きする事があります。「あなたは舌を何枚お持ちですか」と面と向かってお聞きしますと、普通の反応は、「政治家ですから二枚かな？三枚かな？」と答える方が結構おられます。市会議員や県会議員の方は、真面目に「一枚に決まっています」という方が多い。衆議院や参議院の議員さんは、はて私は何枚と言えよよいのかな、と真剣に考える方もおられます。皆さん、学びを深めて戴いた方がよろしいと思えます。選挙がいつか、解散はいつか・・・解散時期については嘘をついてもよいなど、そんな馬鹿な話はないと思っています。この会場にも政治家の方がちらほらおられますので、あまり悪口を言ってはいけませんね。

官僚の悪口なら言ってもよいと思って色々とお話しておりましたら、東京フォーラム会員のお医者様から、「塾長は色々言われますが、官僚だって、そう捨てたものではありません。厚労省の課長クラスは良くなりましたよ。そういう人達とも少し話をして下さい」と言われました。そんなやりとりもありましたので、あまりあちこちにクレームをつけるのは良くないなという気が少ししております。ただ、私は実体験でまいりますので、実際にお会いして、この方は良いとか悪いとか、感じたことをその通りに出しています。

皆様のお手元に『陽明学のすすめⅣ 人間学講話 河井継之助』という本をお配りしてあります。河井継之助については、「つぎのすけ」と読むか「つぐのすけ」と読むか一大論争がありまして、記念館が二つあります。一つは「河井継之助（かわいつぐのすけ）記念館」、もう一つは「河井継之助（かわいつぎのすけ）記念館」と言います。どちらも出かけて行って話を聞きました。現場で話を聞かないと間違えますから。そうしましたら、親からもらった名前は「つぎのすけ」と読む。しかし地元の新聞社が「つぐのすけ」とルビを

ふって以来、「つぐのすけ」という呼び方が世間に広がったということでした。そこら辺の経緯も若干書いております。どうぞお読み戴きたいと存じます。

先程、皆さんで素読を致しました。レジメに意識を書いてございます。学者の先生方が解説をされる時は、ちょっとした文章をひねくり回して学問的に意味づけをされますが、私はそういうのはあまり好きではありません。深澤栄一さんは実体験をもとにして解説されているので、意識がかなりあります。

私も意識が好きでございまして、例えば「吾 十有五にして学に志す。三十にして立つ。・・・」の論語は、多分学者の先生方がされると二十代の解説はないと思います。なぜ二十代はないのか、ずっと考えていました。そしてはっと気がついたのは、自分自身の二十代を考えて、〈二十代は好き勝手なことをやっても世間が許してくれる年代だから、かなり好きなことをやってもいいんじゃないか〉ということです。皆さんはどうですか？ 好き勝手なことをして、ご両親や友人に迷惑をかけた方もおられるのではないのでしょうか。

私自身の体験で申しますと、二十代は好き勝手なことをやって周りに迷惑をかけたのだなど実感する出来事がありました。先日、二松学舎大学のホームカミングデーに参りましたら、同級生に、「深澤さん、昔お金を貸したけれども、まだ返してもらっていませんよ」と言われました。二千元か三千元だったというので、複利計算をしたら結構な金額になりますから、その分もきちんとお返しを致しました。別の人に会った時に学生時代の話になりまして、「もしかして私にお金を貸してない？」と聞きましたら、「大丈夫、貸してない」と言われ、ほっと致しました。大した金額でないとなかなか催促しませんから、当分、大学時代の友人には聞かなければならないなあと思っております。

ということで、二十代は周りに迷惑をかけても許される年代であると理解しました。ですから、十代は学問に熱中するのにとっても良い時期。二十代はやりたい事をやりたいようにやって、周りに迷惑をかけるけれども、かけているという実感はない。かけていてもわからない年代、と意識致しました。

私が論語を解釈する時は、学者の先生は学問的に解釈しますが、それを現実の世界に置き換えたらどうなのか、現実の世界ではどういうふうを考えればよいか、という読み方を致します。中斎塾フォーラムでは、そのように論語を学んでいます。

中斎塾フォーラムの基本的なものの考え方は「知足」です。何から何まで全部「足るを知る」で考えてもらっています。

新しく一般財団法人になりましたら、群馬郷学会と非常にご縁が深くなってきました。

今までは色々な団体とお付き合いしても、表面的なお付き合いが多かったのです。群馬郷学会の場合は、鈴木喜代さんという方を安岡教学のご縁で若干存じておりました、郷学研修所主催の研修会で鈴木さんの御主人と同室に泊りまして、そのご縁で親交が始まりました。柳澤本次会長が勇退された後を引き継ぎまして、昨年五月に群馬郷学会の会長をお引受け致しました。そのご縁で渋川市長の阿久津様にもお会いすることが出来ました。鈴木様、柳澤様、阿久津市長、皆さん本日お越し戴いております。有難うございます。

いずれにしても、新しい団体・新しい人脈と繋がると、燃えている者同士ですとそこから新しい何かが生まれてくる。そういう触媒のような役割も、この中斎塾フォーラムは果たすなと感じています。

### 黎明（れいめい）

本日のテーマは黎明です。昨年、親戚の個展が開催されております銀座の画廊に行きましたら「黎明」という絵がありました。絵の評価は出来ませんが、タイトルが良いなと思って、その絵を買いました。

黎明とは、安岡教学の「覚」という文字の解説で、こう説明しています。砂浜に座って真っ暗闇の海を見ている。だんだん太陽が昇って白々と夜が明けてくると、物の輪郭がはっきりと見えてくる。ああ、これはいい海だ、いい浜辺だなと感じる。その心持を「覚る」という。

私はこれから日本がだんだん夜明けを迎えるのだと、今感じておりますので、黎明というタイトルがよいと思いました。ただ、黎明は今年だけのものではありません。私の頭の中にあるのは安岡干支学や文明法則史学といったもので、レジメにこれからの五年間を書きました。

2013年（平成25年） 癸巳（きし・みずのとみ）

癸・・・筋道を立てる

巳・・・新興勢力の台頭

意識 将来を見通した新興勢力が生まれる

2014年（平成26年） 甲午（こうご・きのえうま）

甲・・・鎧・殻を破って芽を出す

午・・・荒馬（反抗勢力）・進み難い

意識 伸び悩む

2015年（平成27年） 乙未（いつび・きのとひつじ）

- 乙・・・けじめをつける・草木の芽が曲折する  
 未・・・良くない事を思い切って払いのける  
 意識　けじめがつき、新しい勢力がぐんぐん伸びる
- 2016年（平成28年） 丙申（へいしん・ひのえさる）  
 丙・・・生命力が盛んで成長する  
 申・・・色々なものが伸びる  
 意識　新勢力が発展成長
- 2017年（平成29年） 丁酉（ていゆう・ひのととり）  
 丁・・・新旧勢力の衝突  
 酉・・・新勢力の爆発  
 意識　新勢力の確立

この五年間は、徐々に夜明けが近づいたと実感する年だと思っています。政治でみると、将来を見通した新興勢力が今年は生まれるが、なかなか一気には進まない。紆余曲折をしながら五年後にしっかりしたものが出来上がって、日本を引っ張り始める。そう感じて、「黎明」というテーマに致しました。

文明法則史学でみると、今の時代は800年周期で文明が移ろうとしている転換期ですから、一つの国が滅びたり、新しい国が誕生したりということは当たり前のことです。日本人の常識は世界の非常識だと、昔よく言われました。たまたま今、アルジェリアで人質問題が起きていますから、日本人の非常識がもろに感じられる時期だと思っています。日本人は人命は地球より重いという考え方で、人命優先ですから人質は無傷で奪回するというのが常識だと思っています。しかしアルジェリアのような国では、人質の命は非常に軽い。テロを起こした連中は皆殺し、卷添えをくって人質が死んでも仕方がない…というように現地の人たちは思っているのだと感じておりますが如何でしょうか。日本人の常識と外国の方の常識とは、もの凄く食い違う。食い違っていることを、肌で感じるのがこれからの五年間だと思っています。

文明が800年周期で衰退し消滅する。巨視的に見て、今は西洋文明が壊れて次に東洋文明が新たに生まれてくるちょうどその転換期ですから、自分たちの常識はもうまるで通用しない時代に入ったとお考えください。日本の体力も落ちています。それから新しいものが生まれ出して来るちょうどいい変わり目の所ですので、やはり足るを知る・学びを深めるということが必要な時代だと感じています。

深澤塾長に本気で尋ねてみたいこと

今回は木内孝顧問から「深澤塾長に本気で尋ねてみたいこと」を皆さんから事前に聞いてくださいと注文を戴きまして、レジメにも書きました。出来る限りお答えしたいと存じます。

Q 塾長が目標としている中斎塾フォーラムの将来像・理想像を、大局的に・具体的に聞きたい。(比田井芳武様)

A これだけで一時間くらい話が出来ますが、数分で申し上げます。中斎塾フォーラムが知足という考え方で日本の国を作っていく一助・人柱になりたいと思っています。渋澤栄一さんは資金作りの手腕を買われ明治政府に呼び出された時に、大隈重信から「我々は新しい日本の国家を作るのだ。君も八百万の神々の一人になってくれ」と説得されて任官しました。中斎塾フォーラムも、これからの日本の国づくりの柱になりたいと思っています。「知足」という考え方がキーワードです。具体的に申しますと、知識・見識・胆識が身に付く、判断力が身に付く、そういう人物像を描いています。

Q 塾長の『論語講義』の最初の読み方、二度目の読み方、三度目の読み方がどう変わって行ったのか。(福島潔様)

A 『論語講義』(渋澤栄一述)という分厚い本ですが、私はこれを読んだ時は、よく解らないけれど何となく魅了されました。これは良いなと思って、分かりやすい文章にした『渋澤論語をよむ』という本を書かせて戴きました。ですから最初は、何となく惹かれた。二度目・三度目と読み直しをしていると、そうだそうだと頷くことが多くて、おじいさんが私に手紙を書いてくれたのだという感じで読むようになりました。何度も何度も読み直しておりますと、そういう読み方になると感じます。何度も読み返すと親近感が出るものです。

『福翁自伝』という本がありますが、その中で福沢諭吉さんは『春秋左氏伝』が好きで十一回読んだとあります。気に入った文章は全部諳んじたという話が残っています。私が教えて戴いた石川梅次郎先生は、「深澤君、学者になりたかったら簡単だよ。とりあえず論語を全部暗記しなさい。他にも三冊か四冊暗記してしまえば、色々な文章が出てきても分かるものだよ」と言っておられました。とてもそんなことは出来ないと思いましたが、先生はやっておられました。石川忠久先生を見ていますと、よくこれほど頭の中に入っていると驚くほど、漢詩がポンポンと出ます。全部諳んじておられるのだとつくづく敬服致します。

福島さんは論語を読んでおられますが、今は二回目でしたか？ どうぞあと十回くらい、

諳んじるくらいに読まれるとよろしいでしょう。

Q テレビで「恕の人 孔子伝」という番組を見た時、タイトルの一部に「自分を高めることは出来るが、他人を安らかにすることは出来ない」とあり、気になりました。塾長のご意見を聞きたい。(難波幹夫様)

A 「自分を高めることは出来る」という部分は納得できます。「他人を安らかにすることは出来ない」という点は納得できません。ですからこのタイトルは良くない。考えたプロデューサーは一考願いたいと思いました。

他人のためになりたいと思わないと、やっていられないと思います。他人のためにと一所懸命やっていると、最後は自分のためになります。ただ、自分のために一所懸命やっていると、最後は他人のためになる。つまり、〈他人のためになりたい〉と〈自分のためになりたい〉とは、最終的には繋がって一緒になるものだと感じます。

Q 季刊誌に猪瀬理事長が、「塾長が国を動かす政治家の指南役になれば良いと思っています」と書いていますが、塾長本人はどのように考えているか。(今井弘二様)

A なりたくありません。衆議院・参議院の議員さんに結構お会いしました。本を書く、会いたいと言って来られる政治家の方がおられます。お会いすると、非常に熱が入っていて良いと思うのですが、残念ながらその時に言っていた話を実行した方はいません。国政に出ておられる政治家の方々、良い先生が沢山おられると思いますが、お会いした時の約束をしばらく待っても実行しないのです。

ですから政治家の方々にはあまり会いたくはありませんし。なりたいたとも思いません。ただ、成り行きでなってもよいし、ならなくてもよい。自分から政治家の方に売り込むようなことはしたくありません。縁次第、めぐり合わせというつもりでおります。

Q 塾長は、自分の携帯番号を他人に教えない方針のようですが、それはなぜですか。(竹岡誠治様)

A 竹岡さんの質問は、「塾長は自分の携帯番号を他人に教えた者はクビだ！」という方針のようですが、なぜか・・・」というものでした。携帯番号を教えない理由について聞かれた時に、懇切丁寧に説明すると時間がかかり過ぎて仕様がなないのです。それで「私の携帯番号を教えた人はクビ」と話をする、相手が了解して「それなら教わらないで結構です」となるので、非常に便利だと思ってこういう言い方をしていました。クビ・解雇という言い方をすると分かりやすかったのでこういう言い方をしましたが、竹岡さんに言わ

れて反省しました。今後はこういう言い方は致しません。

Q 儒教の代表的経典から、

1. 今日の日本国の状況を如実に示す故事名言
2. 自然と人類との関係を喩す様に教授する故事名言
3. 崩れ行く心身、そして景観の復活を鼓舞する故事名言  
をお教え戴きたい。(木内孝様)

A アンケートを推薦された方だけあって、面倒な質問されました。お答えします。

1. 「<sup>くに</sup>国のまさに<sup>ほろ</sup>亡びんとするとするや、<sup>かなら</sup>必ず<sup>せい</sup>制多し」・・・制とは、<sup>がんじがらめ</sup>の規制とお考えください。福沢諭吉が好きだった『<sup>しゅんじゅうき</sup>春秋左氏伝』の言葉です。

2. ここらへんは安岡教学の中から選んだ方が良くと思うのですが、「<sup>てんなに</sup>天何をか言うや、<sup>しじおこな</sup>四時行われ<sup>ひやくぶつしょう</sup>百物生ず。<sup>てんなに</sup>天何をか言うや」・・・『<sup>ろんご</sup>論語』の中の言葉です。

意識しますと、人間が何もしなくても春夏秋冬は巡って来るぞ。万物は人間が手を加えなくても皆、成長しておる。人間が余計な手出しをするがために、万物は育たず、雪の降り方さえ変わってきた。地球の自然環境にとって人間は良くない事をやり過ぎる。それを反省したら良かろう。でも、天はそういうことについて何も言わない。体験の中からそれを見つけ出さない。

3. この質問は大変でした。「崩れ行く心身」だけの故事名言ならよいのです。また、「景観の復活を鼓舞する」故事名言ならよいのです。二つ一緒にするので難しいのです。

「<sup>ふきん</sup>斧斤(ふきん)の木」というのを探しました。「その<sup>りょうしん</sup>良心を<sup>はな</sup>放つ<sup>ゆえん</sup>所以のものも、また<sup>な</sup>猶お<sup>ふきん</sup>斧斤の木に<sup>き</sup>於けるがごとし。<sup>たんたん</sup>且且にしてこれを<sup>き</sup>伐らば、<sup>も</sup>以って<sup>び</sup>美となすべけんや。」・・・『<sup>孟子</sup>孟子』です。

斧で木を伐り倒すような事をする、自然が壊れていく。自然を壊すという事は、人間自分自身の心も切り倒していく。だから滅多やたらと木を伐るものではない。滅多やたらに景観を壊していくと、自分自身の心身も壊れていくものだ。それを良く考えてから斧をふりなさい・・・と捉えます。

お時間がなくなりましたので、塚越郁夫様の質問は数が多いので、さっとお答えします。

Q 日本にとって中国、ロシア、北朝鮮どこが脅威か。

A 中国。

Q 日本と中国に戦争は起きるか。

A 起きる。

Q 現在の日本において、豊臣秀吉と徳川家康ではどちらのリーダーシップがよいか。

A 豊臣秀吉。

Q 北朝鮮に日本の支援は是か非か。

A 非。

Q 日本にとって、南北統一は良いか否か。日本の脅威になるか。

A 否。日本の脅威になる。

Q 日本は核武装すべしか（是か非か）。

A すべし。佐藤栄作さんは核武装するための検討委員会を作って、アメリカにNOと言われたのでやらなかったという記録が残っています。

Q 兵器輸出は是か非か。

A 非。

Q 徴兵制と志願制はどちらが優れた制度か。

A 徴兵制が良い。

Q 自衛隊の兵力量は妥当か否か。

A 否。

Q 現在の日本社会の最大の問題点と解決策。

A 国家目標がない。良い政治家の登場。

Q 夫婦別姓は是か非か。

A 非。

Q 日本の少子化の原因は、女性にあるか否か。

A 否。

Q 若者のだらしない系ファッションはいかが。

A 好きではない。

Q 少年法は是か非か。

A 非。

Q テレビ局の視聴率第一主義の番組制作は是か非か。

A とても良くない。

Q 塾長のほしいもの、恐いもの、好きなもの。

A 欲しいものは健康、死んだ後の世界についての知識。恐いものは奥さん。好きなものは達成感。

Q 日本は景気回復するか。

A する。

Q 小学校からの英語教育は是か非か。

A 非。

Q 民間、特に零細企業など厳しい状況にある中で、政治（屋）家・官僚・役人など上の世界に居る人々は厳しい状況が身に及んでいない為、意識が微温湯につかっている感じに受け取れます。本氣になって貰うには、大胆な行財政改革を為し、上から変革して行く必要があると思いますが、今の時代、山田方谷・河井継之助の師弟のような人物が現われ、具現化して行くのは難しいのでしょうか。（野村明廣様）

A 人物は現れます。

最後に一言だけ申します。皆さんのお手元に河井継之助をお渡ししました。河井継之助は実在当時のものを調べますと、「西郷隆盛か河井継之助か」と並び称されておりました。この間、経済同友会で新潟に行きました。河井継之助の話を致しましたら、地元の方もあまり知らないのです。もったいないと思いました。河井継之助については素晴らしい人物なので是非お読み戴いて、その中から自分自身の糧になるものをもって戴きたいと存じます。

お時間が過ぎたようです。黎明・・・これから時代が夜明けを迎えるということを申し上げて終わりに致します。どうも有難うございました。